

平成二十八年度総会開催

熊本県芸術文化祭第57回記念奨励賞表彰式 第51回県文化懇話会 新人賞贈呈式

平成二十八年度熊本県文化懇話会・熊本県文化協会の総会が六月八日(水)午後五時三十分、熊本市の



石櫃紳一郎
熊本市経済観光局長



小野泰輔
熊本県副知事



吉丸良治
県文化協会会長

熊本ホテルキャッスルで開催され

た。総会では熊本県芸術文化祭奨励賞の表彰式と県文化懇話会新人賞の贈呈式も同時に行われた。

出席者は三百六十五名、委任状を含めると千四百五十名で総会は適法に成立し、文化一般部門で熊本市民会館の山田千明氏の司会進行で開会した。

議事に入る前に来賓より祝辞。

蒲島郁夫熊本県知事の代理で小野泰輔副知事より熊本地震の被災者へお見舞い、震災への安心できる対応策、文化の力の必要性、熊本再生への協力依頼、受賞者へのお



小野友道
県文化協会監事



佐々瑞雄
県文化協会前専務理事

祝いなどを述べられた。

次に大西一史熊本市長の代理で石櫃紳一郎経済観光局長が祝辞を代読された。被災者へお見舞い、震災復旧への協力依頼、総会開催の喜び、文化の発展への感謝、受賞者へのお祝い、熊本市地域文化創造協議会の設立などを述べられた。

議事に入る前に、本年が役員改選に当たり議長選出のため、吉丸前会長が満場一致で県文化協会長に選任された。

新事業計画、予算・決算、 役員改選を承認

初めに吉丸良治県文化懇話会代表世話人・県文化協会会長が挨拶。被災者へお見舞い、県・市・出席

者へのお礼、熊本城復旧への協力依頼、各受賞者へのお祝い、文化の世界で地域の元気につなげたい等と述べた。

この後、吉丸代表世話人を議長に選出。

第一号議案は平成二十八年度・二十九年度熊本県文化懇話会・熊本県文化協会役員選出結果と承認について、事務局の佐々専務理事による議案説明で議事に入り、質疑なしで第一号議案を承認。

続いて佐々専務理事による議案説明で、第二号議案は県文化懇話会、第三号議案は県文化協会、それぞれの二十七年事業報告と収支決算案を提案。小野監事により適切な処理との会計監査報告。質疑なしで第二号、第三号議案を承認。



司会
山田千明氏



大江捷也
県文化協会常任顧問

続いて佐々専務理事による議案説明で、第四号議案は二十八年度運営基本方針、第五号議案は県文化懇話会、第六号議案は県文化協会、それぞれの平成二十八年度事業計画案と収支予算案も質疑がなく会場の拍手で原案のとおり承認され、総会の幕を降ろした。

県芸術文化祭の

奨励賞三作品を表彰

引き続き第五十七回県芸術文化祭参加事業の中から芸術的価値を高く評価された三作品に奨励賞を贈った。選考委員を代表し、大江常任顧問が「二十二作品が候補にノミネートされたが、夢・草枕は熊本・新宿公演を四年連続で実施された舞台を評価。県



美術協会展は見事な大作の展示を評価。マンドリンの祭典は九州各地から百五十名の参加で見事な演奏を評価」と選考経過を報告。奨励賞の三作品は次のとおり。

- 「夢・草枕」峠の茶屋の花吹雪
（代表：井上智重）
- 「第七十回記念 熊本県美術協会展」（代表：堀晋吾）
- 「マンドリンの祭典 創立六十年記念 第四十七回定期演奏会」（代表：森 榮一）



懇話会賞は該当なし
新人賞に小路永和奈氏(箏曲家)
を表彰

引き続き第五十一回県文化懇話
会賞・同新人賞贈呈式に移った。

選考委員を代表して坂本正選考
委員が「懇話会賞には三名のノミ
ネットがあったが、二名は文化活
動が顕著で対象外、一名は今後の



坂本 正
選考委員



新人賞の小路永和奈氏

研鑽状況を見てみたいとの意見で、
該当なし。新人賞は二名の方がノ
ミネットされたが、一名を決定、
受賞理由は次のとおり」と選考経
過を報告。

新人賞・小路永和奈氏(箏曲家)
全国で最も権威が高いと言われる
第二十二回賢順記念くるめ全国箏

曲コンクールにて

十七弦で吉松隆作
曲「なばりの三ツ」

を演奏し、賢順賞

(第一位)を受賞。

熊本の本邦楽の質の
高さを評価。

新人賞の小路永

和奈氏に壇上で吉

丸会長より表彰状



小堀富夫
県文化協会名誉会長

と記念品が贈呈さ
れ、懇話会から花
束が贈られた。

新人賞の小路永
和奈氏は、自分が
貰っていいものが
迷ったが、励まし
の賞だと思って、

今後とも頑張ってい
きたい。お世話になった方々
に感謝しますとお礼を述べ
られた。

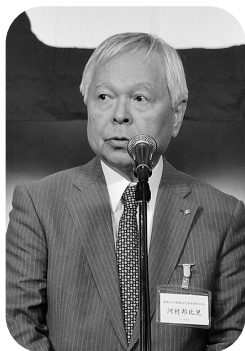
引き続き受賞を記念して、

小路永和奈氏が十七弦で吉

松隆作曲「なばりの三ツ」を演奏。

優しくまた力強い演奏で人々を魅
了し、会場から大きな拍手が送ら
れた。

この後、小堀富夫文化懇話会及
び文化協会名誉会長の発声による



河村邦比児
熊日新聞社社長

乾杯で祝賀、懇親の宴を開いた。
会場では震災の状況やお互いを
気遣う会話や、無事を報告し合う
会話が多く見受けられた。

また、受賞者へお祝いやお互
いの情報交換で有意義なひとときを
過ごし、あつとゆう間に時間が過
ぎ、午後八時過ぎに、河村邦比児
熊日新聞社社長の締めで一連の会
を終了した。

(県文化懇話会世話人・堀田 清記)

(撮影・坂本 徹氏
服部和洋氏)

